（別紙6）

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成１９年９月２５日

【評価実施概要】

事業所番号	0770400765
法人名	株式会社　愛心会
事業所名	認知症対応型共同生活介護ほっとファミリーぞうの目
所在地	福島県いわき市佐糠町東一丁目１０－８ （電　話）0246-62-0111

評価機関名	社会福祉法人福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	**平成19年8月28日**	評価確定日	**平成19年9月28日**

【情報提供票より】（平成19年 7 月 25 日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 12年 4 月 1 日	
ユニット数	１ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9 人	常勤(専任7人,兼務1人) 非常勤 1人, 常勤換算7.8

（２）建物概要

建物構造	鉄筋　造り
	１階建ての　１階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷　金	有（　円）　(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)	有りの場合 償却の有無	有 ／ 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり　円			

（４）利用者の概要（ 7 月 25 日現在 ）

利用者人数		9 名	男性　3 名	女性	6 名
要介護１		1　名	要介護２	4	名
要介護３		4　名	要介護４		名
要介護５		名	要支援２		名
年齢	平均	87.5 歳	最低　83 歳	最高	94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	かしま病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりを大切にし、ゆったりとした時間を過ごしていた。特に、自由に外へ出入りできるよう事業所全体で取り組んでいる。また、スタッフも明るく施設全体が居心地がよい雰囲気になっている。そして、利用者とスタッフがひとつになって何事にも前向きに取り組んでいる姿が見受けられた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の評価をきちんと理解しており、改善できるところは改善するなど全職員で前向きに取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	全職員で考え、リーダー、介護支援専門員、管理者等がまとめるなど、一人ひとりが意義を理解し、取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	２ヶ月に１回開催しており、行事やケア等についての報告を行ったり、委員からの意見を頂いたりしている。また、民生委員や地域包括支援センターなどから地域の情報を頂いたりしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	施設独自で作成している新聞を利用し、利用者の暮らしぶりなどを家族へ報告したり、家族が面会に来所されたときに情報が入りやすいように配慮されている。苦情等については、解決するシステムが作られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	散歩、買い物など出掛ける機会を多くするようにしており、会う方々に挨拶や会話をする等して交流を持つように行われている。また、施設での夏祭りを利用し、地域の方々や子供たちに参加してもらうなど地域との連携に積極的に取り組んでいる。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を設定し、わかりやすく簡単なものとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝のミーティングにて唱和し、日々念頭において行動できるようにしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩、買い物等、出掛ける機会を多くする様にしている。外出した際には会う方々に挨拶や会話をするなどして交流をする様にしている。また、施設で夏祭りを行った際、地域の方々や子供たちを招待するなどしている。	○	日中は住民が少なく不在であるということだが、広報誌を配布する等して、さらに多くの人と交流する機会を増やす取り組みを期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で考え、リーダー、介護支援専門員、管理者等がまとめた。外部評価結果についても同様に全員で考え、改善策等を検討している。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、２ヶ月に１回の開催している。行事やケアの内容についての報告をし、委員から意見をいただいたり、民生委員から地域の情報をいただいたりしている。		
6	9				
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり等を家族へ報告する「ぞうの目通心」を毎月発行している。職員の異動についても「ぞうの目通心」で報告している。その他、面会に来所された際に見ていただくように、写真を掲示したり、アルバムを作り見やすい場所に置く等工夫されている。しかし、預かり金については小額のため特に報告はしていない。	○	預かり金については小額であっても定期的に(「ぞうの目通心」を送付する時に同封する等)お知らせしてほしい。または家族来所時に確認して頂くなど、預かり金の使用用途が明瞭になるようにしてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が来所した際に利用者の状況等を報告し、苦情や意見等がないか把握に努めている。また、苦情等について解決するシステムをきちんと設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員の異動等は少なくしている。開所当時からほぼ同じ職員である。また、家族へは「ぞうの目通心」を通じて報告している。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に法人全体での研修及び外部研修等の参加を行い、参加者の報告会等も行っている。	○	研修参加及び報告会等の記録に不備が見られる為、フィードバックが行えるような記録をするようにしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわき市グループホーム連絡協議会及びいわき市勿来地区ネットワークへ加盟し、研修等へ参加し、地域同業者との交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とできるだけ生活を共有できるようにし、利用者の気持ちが不安定になった際、安心してもらえるよう心がけている。また、利用者の方が気持ちが不安定になった際は安定するまで関わるようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と生活を共有する中で、出来るだけ利用者のペースの中で一緒に考え、活動できる様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当っては、利用者及び家族の希望を取り入れ、全職員の考えをミーティングを通して集約している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員ミーティングを通して意見を集約し、家族への説明・意見の聴取を通して新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を中心に、疾病や利用者及び家族の希望によって、入居以前のかかりつけ医に継続して受診出来る様支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者やその家族等に方針を伝え、重度化や終末期に関しての同意を得ている。利用者の状況により、終末期ケアが必要な方及び重度化により対応が困難な方へは、その対応がよりよいと思われる施設等へ移動して頂いている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室のドアを開けるにしても本人に必ず声をかけてから開けるなど、それぞれに聞きながら対応したり、個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活スタイルが異なるため、介護計画を作成する上でも一人ひとりのペースを重要視し、希望に添った支援が行えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	協力医からの栄養指導及び利用者からの食に関する希望を基に、四季の季節感等も大切にして利用者と一緒に準備・調理・片付け等を行っている。また、本人の希望に添って刺身やビールを出すこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者個々の生活のペースに合わせて時間を決めないで入浴して頂いているため、毎日行っている方もいれば二日おきの方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	生活歴を大切にし、ホームでの活動で一緒に行えることは行っていただいている。例えば、利用者に食事の準備等を手伝っていただいたり、自主的に行事のたびに写真撮影を行ったり、毎朝花の水撒きを日課にしている方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	日々の近所への外出は毎日の様に行っている。行事としての遠い所への外出は、利用者や家族の希望を聞きながら、楽しめるよう実施し、写真等で記録している。また、気軽に自宅に行くなど個々に応じた支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に外へ行きたい利用者もいるが、全職員が注意することにより鍵をかけないケアが実施されている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の民生委員及び消防署へ協力をお願いしてある。また、消防署主催の救急蘇生法の訓練に参加したり、消防署へ依頼し訓練を行ったり、利用者一人一人救急袋を持ち避難訓練を行っている。その他緊急連絡網も作成されている。	○	夜間の職員体制が手薄になってしまう為、地域の消防団への協力体制の構築等、緊急時の地域からの支援体制が得られる様働きかけてほしい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食物に対する嗜好を把握すると共に食事・水分量の摂取チェックシートを作成・記録し、一人ひとりにあった支援を行っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせる装飾を利用者と一緒に作成している。また、行事や外出等の写真を飾ることで生活が楽しくなるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は私物の持込は基本的に制限していないため、ベッドまたは布団どちらでも対応できるようにしている。また、家族の写真や絵を飾ったり、自宅で使用していた机を使用したりそれぞれの個性が感じられる部屋になっている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙１）を添付すること。

3　評価結果に対する事業所の意見

事業所名	ほっとファミリーぞうの目
記入担当者名	和田　昭雄

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。